

新年のご挨拶

会長 長田 和志

新年あけましておめでとうございます。皆様、厳かで、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます

新年を迎えるにあたりご挨拶を申し上げます。昨年、定時社員総会、技術品質委員会の勉強会・工場見学会、安全衛生委員会の安全大会を実施し、多数の会員の皆様にご参加を戴き厚くお礼申し上げます。

昨年は、英国の国民投票におけるEU離脱派の勝利、米国大統領選挙でトランプ氏の勝利と事前の予想を覆すことが起こり、将来に対する不安と期待要因が混じった年でした。このことは、既成概念を変更するという時代の流れを感じさせます。

国内に於いては、安倍長期安定政権の下、着実な景況感の回復が見られてきています。また金融政策では、日銀のマイナス金利政策とこれまで直面してこなかった大胆な政策も打ち出され、脱インフレへの歩みが進むと大いに期待するところです。

私どもの業界に関連するところでは、国際的には、パリ協定（COP21）の締結があります。これまでも地球温暖化対策の国際的枠組みが話し合われてきましたが、CO₂排出大国の米国、中国は枠組みに入って居ませんでした。パリ協定ではこの二大大国が組み込まれ、今後の進展に期待するところが大です。一方景況感の回復とともに実質求人倍率も一昨年来1.2を超えており、求人状況は厳しくなり、これまで以上に職場環境の改善することが求められています。



このような状況下の中、日本RPF工業会は、安定的・継続的な成長を継続するため、技術品質委員会、安全衛生委員会、総務広報委員会の活動を通じて情報提供を図って行きたいと考えています。

本年の活動目標として

1. 安心・安全な職場環境の整備の充実、そのためのハード及びソフト情報の提供。働き手を確保するためにも避けて通れない重要な問題です。
2. 潜在的なRPF市場の掘り起こし、そのための情報の発信。エネルギー源の多様化が叫ばれている現在、是非とも実現したい目標です。現在、工業会として取り組んでいますISOへのSRF（固形燃料）の規格化作業も市場開拓への一助になると確信しています。
3. パリ協定の流れに乗り、二酸化炭素排出削減に寄与できる燃料としてのRPFの地位の確立。業界の安定的・継続的な発展のためには、必要な目標と考えています。

周辺の経済・社会環境が大きく変わる可能性を秘めている本年、活発かつ機敏な各委員会の活動により、業界全体、会員企業の発展飛躍の契機になるよう努めてまいりたく考えています。本年も、益々のご協力を宜しくお願いし、新年のご挨拶といたします。